小学校での動物飼育が子どもの社会心理の発達に与える影響（縦断調査）

中島由佳（大手前大学）

キーワード：学校での動物飼育，学年飼育，縦断調査

問題と目的

小学校での動物飼育は，動物やひとに対する共感性や向社会性を始めとする社会心理に影響を持つことが報告されている。しかし，なぜ学校での動物飼育が心の発達に効果を持つのかについは，明らかにされていない。

そこで本研究は，１学年の児童すべてが約１間の動物飼育を経験する「学年飼育」に焦点づけ，学校動物への愛着や飼育体験で感じた心理的要が児童の社会心理に影響について検討した。

方　　法

調査対象者と調査時期

小学４年時に学年飼育を行った児童（time 1: 1,025 名，time2: 983 名，time3: 955 名）

Time 1　飼育開始前（H29.12 月～H30. 2 月）

Time 2　飼育終了時（H31.1 月～2 月）

Time 3　飼育終了約半年後（H31.10 月～12 月）

手続き

授業時間の一部を利用し質問紙調査を実施。調査の所要時間は約 20 分。授業終了後に回収。

使用した尺度と実施時期

学校動物への愛着尺度　いとおしさ，動物への理解の２因子構造を持つ（T1，2）。

飼育前不安尺度　１因子構造。T1 で測定。

学校動物飼育尺度　飼育の楽しさ，命への責任，友だちとの協力の３因子構造を持つ（T2）。

他者への共感性　児童用多次元共感性尺度（長谷川ら，2009）の視点取得，共感的関心（T2，3）。

向社会的行動　向社会的行動尺度（西村ら，2012）の学校場面因子，家庭場面因子（T2，3）。

結果と考察

学校動物飼育に関する各変数を説明変数，他者への共感性及び向社会的行動を目的変数とした階層的重回帰分析の結果を Table 1，2 に記す。

飼育終了時（T2），飼育終了から約半年経った時期（T3）ともに，他者との関係性の育みへの効果が大きかったのは，飼育経験の中で体得した動物への理解，飼育の楽しさ，命への責任であることが，結果からはうかがえる。

Table 1　Time2の共感性，向社会的行動を目的変数とした重回帰分析結果

	他者への共感性	向社会的行動（学校場面）	向社会的行動（家庭場面）
	β	β	β
ステップ１			
T1いとおしさ	$.18^{***}$	$.13^{**}$	$.09^{+}$
T1動物への理解	$.17^{***}$	$.26^{***}$	$.24^{***}$
T1飼育への不安	.01	.02	.02
	$R^2 = .10^{***}$	$R^2 = .12^{***}$	$R^2 = .09^{***}$
ステップ２			
T1いとおしさ	.06	.05	−.01
T1動物への理解	.01	$.10^{**}$	$.10^{*}$
T1飼育への不安	.02	.01	.03
T2いとおしさ	−.05	−.02	−.04
T2動物への理解	$.23^{***}$	$.30^{***}$	$.26^{***}$
T2飼育の楽しさ	$.11^{**}$	−.02	$.08^{+}$
T2命への責任	$.21^{***}$	$.11^{**}$	$.17^{***}$
T2友だちとの協力	$.17^{***}$	.16***	$.06^{+}$
	$R^2 = .32^{***}$	$R^2 = .28^{***}$	$R^2 = .23^{***}$
R^2変化量	$.22^{***}$	$.16^{***}$	$.15^{***}$

$^{+}p < .10$, $^{*}p < .05$, $^{**}p < .01$, $^{***}p < .001$

Table 2　T3の共感性，向社会的行動を目的変数とした重回帰分析結果

	他者への共感性	向社会的行動（学校場面）	向社会的行動（家庭場面）
	β	β	β
ステップ１			
T1いとおしさ	$.10^{*}$	$.12^{**}$	$.11^{*}$
T1動物への理解	$.07^{+}$	$.15^{***}$	$.17^{***}$
T1飼育への不安	−.05	−.03	.01
	$R^2 = .04^{***}$	$R^2 = .07^{***}$	$R^2 = .06^{***}$
ステップ２			
T1いとおしさ	.06	.06	.02
T1動物への理解	−.01	.03	$.08^{+}$
T1飼育への不安	−.04	−.04	.03
T2いとおしさ	−.05	−.03	−.02
T2動物への理解	$.19^{***}$	$.26^{***}$	$.21^{***}$
T2飼育の楽しさ	$.10^{*}$	.04	$.10^{*}$
T2命への責任	$.06^{+}$	$.07^{+}$	$.18^{***}$
T2友だちとの協力	−.02	$.07^{+}$	−.04
	$R^2 = .08^{***}$	$R^2 = .16^{***}$	$R^2 = .17^{***}$
R^2変化量	$.04^{***}$	$.09^{***}$	$.10^{***}$

$^{+}p < .10$, $^{*}p < .05$, $^{**}p < .01$, $^{***}p < .001$

付　　記

平成 29～31 年度科学研究費補助金（基盤研究 C）課題番号 17K01927